平成２２年２月の解説（週間天気予報）

【２月の天候状況】

上旬は初めと中頃と終わりに低気圧や気圧の谷の影響で天気が崩れました。特に中頃の低気圧は非常に強い寒気をともない、北日本では大荒れの天気になるとともに顕著な低温になりました。中旬は低気圧が次々に日本付近を通過したため、全国的に曇りや雨または雪の日が多くなりました。下旬の前半は全国的に高気圧に覆われ晴れの暖かい日が多くなり、24 日から 25 日には全国的に 2 月の日最高気温の高い記録を更新しました。その後は前線を伴った低気圧の影響で全国的に曇りや雨または雪の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、北海道の日本海側、オホーツク海側、東北地方と東日本の太平洋側で平年よりかなり少なくなりました。降水量は北日本で平年並みになりましたが、その他の地方は平年より多くなりました。月平均気温は東日本で平年より高く、西日本と南西諸島はかなり高くなりました。

【２月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は全国平均では例年(注) より 1 ポイント低い 70%でした。北海道と九州地方では例年より 6 ポイントから 8 ポイント低く、中国地方では 5 ポイント高くなりました。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、ほぼ全国的に例年より大きくなり、特に関東甲信地方と北陸地方では 0.9℃大きく、全国平均は 0.4℃大きい 2.8℃でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は北日本で例年より 0.3℃から 0.4℃小さくなりましたが、沖縄地方では 0.4℃大きく、全国平均では例年と同じ 2.2℃でした。

(注) 例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【４月の週間天気予報の利用にあたって】

4 月は低気圧が通過した後に、北からの冷たい空気を持った移動性高気圧に覆われて穏やかに晴れる日の続くことがあります。高気圧に覆われた日中は日射のために暖かく穏やかな日よりとなりますが、夜には晴れることで地表からの熱が放出しやすくなるため急速に気温が下がって翌朝の最低気温が低くなります。天気予報で夜から明け方にかけて風が弱く晴れる予報が出ている日は、夜に入ると気温が下がり朝の冷え込みが強くなりますので健康管理などに気をつけましょう。また、気温が 0℃近くまで下がる場合には、霜が降りるおそれがありますので、霜に弱い農作物や観葉植物などの管理には注意が必要です。